

えひめの歴史文化モノ語り

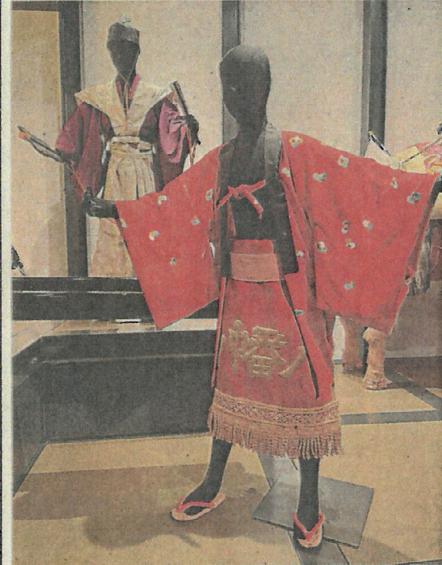
県歴博収蔵資料から

(163)

相撲は日本古来の伝統的競技である。現在では国技が有名だが、元来「競技」が、「四股（しご）」も、語源であるとともに、豊作祈願や除災招福の「神事」としての侧面も持っている。相撲の起源を紹介する「日本書紀」垂仁天皇紀には、野見宿禰（のみのすくね）と当麻蹶速（たいまのけはや）の相撲が相手をつけはや）の相手をつけたことによつて邪靈を退散させ、安穩を得る意味があった。この呪文の根本であり、後にさまざまな祭りや民俗芸能に相撲を取り入れられる要因となつた。

南予の相撲練り

子ども力士円陣で踊り



八幡浜市保内町楠町の相撲練りの衣装(県歴史文化博物館蔵)

八幡浜市保内町楠町で受け継がれている相撲練りの衣装である。化粧まわしをつけた8~12人の子ども力士が円陣を組み、立行司の語る文句に合わせて踊るもので、演じる者は小学生が多く、神社の境内や御旅所で相撲を取つたり、祭礼の練り行列に加わつたりする芸能は大洲市西部から愛南町

▽随时掲載します

八幡浜市保内町楠町の相

撲練りの衣装は民俗展示室

1で展示中。

八幡浜市保内町楠町で受け

継がれている相撲練りの衣装である。化粧まわしをつけた8~12人の子ども力士が円陣を組み、立行司の語る文句に合わせて踊るもので、演じる者は小学生が多く、神社の境内や御旅所で相撲を取つたり、祭礼の練り行列に加わつたりする芸能は大洲市西部から愛南町

など、相撲練りが伝承されている地域から名力士が誕生している。幼い頃から地

域に根ざした相撲文化に触れていたことも関係しているのかかもしれない。

田山英五郎、大関朝汐太郎（八幡浜市出身）、そして元関脇玉春日（西予市出身）など、相撲練りが伝承されている地域から名力士が誕生している。幼い頃から地域に根ざした相撲文化に触れていたことも関係しているのかかもしれない。

（専門学芸員・大本敬久）

県内の民俗行事の中にもさまでまな神事相撲が伝承されている。有名な行事としては今治市大三島町の大山祇神社「一人角力（ひとりりくごうりき）」（旧暦5月5日、9月9日）、宇和島市吉田町の八幡神社秋祭（11月3日）の「卯之刻（うのこく）相撲」、そして西予市野村町の「乙亥大相撲」（11月下旬）があり、子どもが行う神事相撲も各地で行われている。それ以外に、南予地方の神社祭礼の練り行列の一つに組み込まれている「相撲練り」もしくは「相撲甚句」と呼ばれる民俗芸能も愛媛独特の文化である。写真は

大相撲のかつての横綱前田山英五郎、大関朝汐太郎（八幡浜市出身）、そして元関脇玉春日（西予市出身）など、相撲練りが伝承されている地域から名力士が誕生している。幼い頃から地域に根ざした相撲文化に触れていたことも関係しているのかかもしれない。

（専門学芸員・大本敬久）

宇和島市三浦では、1844（天保15）年に相撲練りが始まっていたとされ、西予市宇和町下松葉には48（嘉永元）年に調達した墨書きの残る力飯を入れる飯櫃

（めしごつ）＝県歴史文化博物館保管）が伝存してお

り、江戸時代後期から末期には南予地方各地で相撲練りが伝播（でんぱ）していることが確認できる。